

■特定課題セッションⅡ報告

「ソーシャルワークマインドとはなにか」

コーディネーター：保正 友子(立正大学)

本セッションの目的は、ソーシャルワーカーの福祉マインドである「ソーシャルワークマインド」について、実践と理論の両面から検討することである。主要な論点は、ソーシャルワークマインドとは何か、どのようにして育むのかである。3名の会員からの報告、質疑応答、フロアとの共同討議の順で進んだ。3名の会員からの報告の概要は、以下のとおりである。

1. 浅野貴博会員「ソーシャルワーカーであることの不確かさ-ソーシャルワーカーの実践と学びの検討を通して-」

社会福祉士または精神保健福祉士を有し、社会福祉関連の現場で10年程度以上の実践経験のある26名のソーシャルワーカー対象のインタビュー調査に基づき、ソーシャルワーカーのアイデンティティーの“不確かさ”について、ソーシャルワーカーの専門職としての学びの視点から考察した。そこでは、資格取得後10年の経験があるにも関わらず「私は“ソーシャルワーカー”ではないんですけど…」と話す協力者の姿がみられた。また、それらとソーシャルワークマインドとの関連性については、コアとなるソーシャルワークマインド(こうあるべきであるという価値)を取り囲む形で、ソーシャルワーカーそれぞれのあり方が存在することが報告された。

2. 内田充範会員「生活構造ニーズから探るソーシャルワークマインド-生活保護定時制高校生の修学継続要因分析から-」

生活保護受給世帯の定時制高校生3名に対する、中学時代から現在の定時制高校における学習・生活全般・将来の生活についての半構造化インタビューの結果に基づき、生活構造モデルおよびソーシャルワーク視点を明らかにし、その分析によりソーシャルワークマインドおよびその醸成過程を考察した。ソーシャルワークマインドとは「倫理綱領を基盤とし、ソーシャルワーク理論および実践モデル(コーディネート・ネットワーク・アプローチ等)に基づいたクライアントが生きていくための課題(ニーズ)に向き合う柔らかさ謙虚さ」であり、このことによって、はじめて幅広いクライアントから受容される「理論と実践の統合をめざすもの」であることが報告された。

3. 川端麗子会員・中島尚美会員・川島恵美会員「ソーシャルワーク教育が育む『ソーシャルワークマインド』の考察-卒業一年後のインタビュー調査の分析を通して-」

ソーシャルワーク教育が育む「ソーシャルワークマインドとは」という問いに着目し、ソーシャルワーク教育による形成プロセスを経てアウトプットされるものとして捉える視点から、卒後1年後のA大学卒業生へのインタビューを実施し内容を分析した。その結果、卒業生が「福祉専門職」「一般職」に関係なく人との関係性の構築に重点を置き、人を環境の中で捉え、人の尊厳に根ざした視点で主体をクライアント側に置くという、ソーシャルワークの価値基盤が揺るぎなく存在していることが見出された。このことは、ソーシャルワーク教育が育む「ソーシャルワークマインド」につながるものと考えられることが報告された。

フロアを交えた協働討議では、ソーシャルワークマインドとはなにか、他職種からみたソーシャルワーカーのマインドとは等についての意見が交わされた。医療職の立場からは「医療職は資格取得後10年の経験があるにも関わらず『医療職ではない』と言うことはできない。そろそろソーシャルワーカーも何らかの形をきちんと示していく必要があるのではないか」という問題提起がなされた。また養成校の教員からは、学生にどのようなソーシャルワーカーになってほしいのかを伝えていく必要性が提起された。さらに現場のソーシャルワーカーからは、「ソーシャルワーカーは、生活に関することの専門職、一緒に考える専門職であると明確に言えるようになる必要がある」との発言がなされた。

参加人数は25人程ではあったが、活発な討議が行われた。この場を借りて日本社会福祉学会と参加者の方々に御礼を申し上げたい。